

失敗からもう一度まちをつくり直す

「お互いさま復興」

お互いさまセンターまび（般社団法人お互いさままびクラブ）

平成30年7月豪雨から1年が経ちました。「被災地からの発信」では、被災地を中心に活動している団体取材し、被災地の当時の状況や現状、今後について、情報発信しています。

今号では、倉敷市真備町で被災された障がいのある人、高齢者、子育てで支援が必要な方々への支援活動を行っている「お互いさまセンターまび」取材しました。

「この一年の間で「出来たこと」を伝えていくのではなく、自分たちが失敗したこと、上手くいっていない現状を知ってほしい。」と話をされるのは、「お互いさまセンター」の立ち上げから運営までずっと関わっておられる多田伸志さんです。

「お互いさまセンターまび」の立ち上げ

発災後、倉敷市真備町内の障がい・高齢・児童関係事業所等の有志で活動していた「真備連絡会（通称）」が、自分たちで支援団体を立上げようと話をしたのは9月上

旬のことです。メンバーの事業所もほとんどが被災していました。今は様々な支援団体が活動してくれているが、いずれは帰っていく、その後、壊れたコミュニティの復興は自分たちがやっていかなくてはいけないという思いから「お互いさまセンターまび」を立ち上げたのです。

被災された特に障がい（知的・精神・身体等）のある人、高齢者、子育てで支援が必要な人を対象に、車での送迎や日常生活のお手伝いなどの活動を行ってきています。車とスタッフを少しずつ増やし、現在、車3台、スタッフ5名となりました。



活動の一コマ。これから送迎へ行きます。

送迎のドライバーは被災した方たちを雇用しています。支援に行くとき、同じ被災者としての立場なので、移動の間、車の中は相談室のようになります。ため込んである気持ちを吐き出せる場としては良かったのではないかと思います。

現在見えてきた

「心」のしんどさ

一方で、支援のすべを見いだせない住民の「心」の問題にも直面しています。

●被災していない人の心のつらさ
被災しなかった方が、スーパー

に行くのが怖いと言うのです。スーパーで近隣の被災された方と会ったとき、どう声を掛けていいかわからない、気持ちの後ろめたさがあるのです。被災してない方にも心の問題が起きている。これは体験して初めてわかったことです。

●被災者同士の格差

同じように家が水に浸かった人たちの中でも、保険の加入の有無で家の再建が出来る人とそうでない人がいます。

自宅の再建の目途の立たないママ友が、子どもの通学のバスを待つ時に、「あなたのところはいいわねえ」と吐き捨てて帰っていくのです。この一言に悶え苦しむというようなことが日常茶飯事で生じています。

本当に困っている方へ届かない支援の手

私たちは、「困っていることがあればSOSを出してくれ」と言いますが、実は本当にしんどい人のところへはつながっていないということがある。この一年で明らかになりました。

被災した直後にいろいろな支援団体が来てくださり、「困っていることはないですか」と聞かれ

るのですが、そのこと自体にうんざりしたり、その後の手当てにながらなかつたこともあり、今更、支援に期待していない方々もいるのです。すでに一年間手つかずのままになっていて、もう一度声をあげてくれと言っても信じてももらえない。「助けて」と言えない人たちが孤立してまっています。これが現在からの課題だと思います。

失敗から学び、
誰も置いてきぼりに
しないまちづくりへ

被災した方たちはまだ頑張っています。頑張りが利かなくなつた時が一番危機です。そのときに信頼をどれだけ培うことができるかが重要になってくるのではないのでしょうか。誰かに助けを求めるといふのはその人を信頼しているからで、これは日々の積み重ねで決まります。だからこそ「お互いさまセンターまび」の活動は丁寧に行っていきたいと思っています。

今、「真備」というまちは、失敗からもう一度新しくまちを創り直していこうという機運や心が向いています。このまちは新しい可能性をたくさん秘めている

のです。水害で直接亡くなった方のほとんどは要援護者で、避難所では迷惑を掛けてしまうと自宅に残った高齢者でした。今度、水害がある時は誰も置いてきぼりにしない、逃げるこのことのできる体制をつくっていかないといいけない。若い世代の人たちが真備に帰って安心して子育てをしようと思えるまちが必要なのです。まちの青写真のようなものをつくって早くメッセージを伝えていきたいと思っています。



「お互いさまセンターまび」

- 平成30（2018）年11月1日開所。発災前から地域包括ケアを見据えて倉敷市真備町内の障がい・高齢・児童関係事業所等の有志で活動していた小地域自立支援協議会「真備地区関係機関・事業所等連絡会（通称：真備連絡会）」で立上げ、運営。
- 真備連絡会は任意団体であるため、運営費の助成がしやすいよう、当面事務局を「NPO法人岡山マインド「こころ」（多田さんが代表理事）」内に置き、活動。
- 令和元（2019）年5月、「一般社団法人お互いさま・まびラボ（真備町のまちづくり会社）」設立。事業の一つとして「お互いさまセンターまび」の事業を中・長期的に継続実施できる体制を整える。
- これからのまちづくりのため、2年後に、基金等を受けられる公益法人化を目指す。

多田 伸志 氏

NPO法人岡山マインド「こころ」代表理事
心の「病」を抱えた当事者・家族の方々が安心して生活できる支援体制とやさしい地域づくりを目的にグループホーム、地ビール醸造所・ビアホールを立上げ、運営している。

2020年4月入学生願書受付中！（最終締切 2020年3月19日㊥）

社会福祉学科 通信課程

中国、四国地方で唯一の
短期養成課程!!
※公益財団法人社会福祉振興・
試験センター調べ

一般養成課程（1年6ヶ月コース）・短期養成課程（9ヶ月コース）

精神保健福祉学科 通信課程

一般養成課程（1年7ヶ月コース）・短期養成課程（9ヶ月コース）

教育訓練給付制度
対象講座



詳しくは
QRコードから
HPをごらん
ください。

好きを極めてプロになる

学校法人穴吹学園
専門学校 穴吹パティシエ福祉カレッジ

〒760-0021 香川県高松市西の丸町14-10

TEL.087-823-5566

※スクーリングはJR高松駅すぐ近くの当校
校舎で行います。